

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300120		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①		
所在地	京都市中京区冷泉町119		
自己評価作成日	平成30年5月10日	評価結果市町村受理日	平成30年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年6月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者目線の丁寧な対応と、ご利用者様の過ごしやすい環境を心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは開設後半年が経過し利用者の生活を中心に考え様々なことに取り組んでいます。外出支援においては日々の散歩や買い物他、初詣や桜の花見、植物園や外食、ドライブなど外出の機会も少しずつ増え、利用者が楽しみを持ちながら暮らせるよう支援しています。また、家族との良好な関係性を築き、毎月写真を掲載した広報誌を家族に送付し利用者の暮らしぶりを伝え、運営推進会議に多くの家族の参加があり意見や要望が活発に出されており改善に向けて取り組んでいます。職員の研修にも力を注ぎ身体拘束防止についてや認知症ケア、プライバシー保護、接遇マナー、看取り支援等様々な研修を実施し、行事や物品、食材等の担当を決め職員が自主的に物事を考え発言できるような体制を作り、職員のスキルアップに繋げています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在まだ不十分	法人の経営理念を玄関に掲示したり、新任入職時には理念について説明し職員に意識づけを行っています。理念の中に謳われている徹底討論徹底和解という言葉に常に意識し会議以外にも随時意見や提案を出し、話し合う機会を多く持ち実践に向けて取り組んでいます。事業所独自の理念の作成についても考えています。	事業所として利用者にとどのような暮らしやサービスを提供していくのかを職員間で話し合い事業所独自の理念を掲げ、ホームとしての方向性を示して行かれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流に十分に組み合っていない。	自治会に加入しており、散歩時には近隣の方たちと挨拶を交わしたり、併設事業所へのボランティア来訪時には参加し関わりを持つよう努めています。地域の情報等あまり得られておらず、交流する機会が少ないのが実情です。併設の事業所と合同で行う夏祭りには地域の方に案内し参加してもらう予定です。	運営推進会議に地域役員等の参加を依頼し地域の情報を教えてもらい参加したり、保育園や小学校等にも声をかけ子どもたちとの交流の機会を持たれてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への発信は十分にできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において地域の方の参加は十分ではないが、ご家族様、ご利用者様からの意見から向上につなげている。	会議は併設の事業所と合同で利用者や多数の家族、時には地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1度開催しており、写真を見ながら利用者の状況説明や活動報告、行事や事故報告等のもと活発に意見交換を行っています。食事の内容が知りたい、外に出る機会を増やしてほしい等多くの意見が出されており、都度説明したり改善するなど得られた意見は運営や日々の支援等に反映するよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在まだ不十分	運営推進会議の議事録を届けたり、事故報告や書類の手続き等で役所の窓口を訪れ、ホームの理解を得よう努めています。会議や研修会の案内等が届いており今後できる限り参加したいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して拘束についての学びに努め、不適切と思われることがあれば都度注意している。	管理者は法人主催の身体拘束についての研修を受講しホームで伝達研修を行い全職員に周知しています。2か月に1度身体拘束適正委員会を開き拘束に繋がるような事例について検討しています。毎月の会議の中でも拘束をしないケアについて話し合っておりセンサーの使用についても職員は理解し、速やかに利用者が安全に移動できるよう支援しています。不適切な言葉かけが見られた場合は都度注意をし、外に出たい希望がある時は職員が付き添い散歩に出るようにしています。	

グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学び、日ごろから注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まだ不十分		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約では丁寧な説明を心がけ、相手方からも疑問点を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を実施し、ご家族様の意見を聞き取る機会を設けている。その結果を現場に発信し、運営に反映している。	利用者からは食べたいものや行きたい所の要望が多くメニューや外出支援などに反映しています。毎月利用者の写真を載せた便りを家族に送付し、意見や要望は運営推進会議や面会時等に聞くようにしています。食事の味つけや形態についての要望が多くあり、家族に試食をしてもらい理解を得たり、職員間で調理技術の向上に取り組むなど得られた意見や要望は日々の支援等に反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場や、個別に話す機会を設けている。	毎月の全体会議やフロア会議、日々の業務の中で職員からの意見や提案を聞いており、会議のテーマを事前に配布し参加できない職員からは意見を聞いています。利用者のケアについて話し合いをすることが多く日々の支援や業務に反映させています。行事や物品や食材等の担当者から意見が挙がることもあります。また、年2回の定期面談や何かあれば随時の面談を行い相談や意見等を聞く機会としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に関して不満声もあるが、可能な限りの努力は感じられる。労働時間については基本的には残業の無いようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に月ごとのテーマに沿った研修を行っている。		

グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在まだ不十分		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメントにおいて要望など汲み取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談等で信頼関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセス面戸で要望の聞き取りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的にコミュニケーションを行い、単純にご利用者帯スタッフの関係になる事の内容にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際の情報伝達に限らず、毎月お手紙を送るなどし関係を聞けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関して、家族様からの制限がない限り自由に受け入れている。	友人等の面会時には居室やフロアなどに案内し椅子やお茶の用意をしゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮しています。近隣から入居されている方もおり、散歩や買い物に行くところが馴染みの場所となることもあります。家族と一緒に自宅に帰ったり、勤めていた職場まで出かける際は外出がスムーズにできるよう注意事項を伝えたり、身支度などの支援を行っています。	

グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の間に職員が入り関係性が気付けるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後に関しては、現在まだ不十分		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の意見をくみ取りながら行っている。	入居前に自宅に出向き面談を行い本人や家族から生活歴や経歴、趣味、希望等を聞きアセスメントシートに記載し、以前利用していたサービス事業所等からの情報も得て意向の把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中で思いを聞き取り知り得た情報を介護記録に記載すると共に、思いに沿った暮らしができるよう今までの生活リズムや趣味などの情報も得て、職員間で話し合い思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートなどを活用し、職員間で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なカンファレンスの実施により現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の意見をくみ取ったうえで作成している。	本人や家族の意向を基に介護計画を作成し3ヶ月毎にカンファレンスで状況確認し、モニタリングと評価を行い状況に応じて都度見直し、状態が落ち着いていれば6ヶ月毎に見直しを行っています。見直しの際は再アセスメントとサービス担当者会議を行い家族に意向を再確認し、往診時に聞いた医療情報等も反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行えている。		

グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズ把握には努めているが、それにこたえるための柔軟性はまだ不十分。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は現在まだ不十分		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に必ずかかりつけ医のもとに受診に行っていたが、納得の上で適切な医療を受けられるようにしている。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを説明し、ほとんどの方がホームの協力医に変更しています。協力医は月2回の往診があり24時間連絡可能となっており、利用者の状態に変化があった場合は指示やアドバイスをもらったり、随時の往診もあります。以前のかかりつけ医や他科の専門医への受診は家族が対応しており状況に応じて職員が行くこともあり、結果は口頭で互いに報告を行い共有しています。神経内科は2週間に1回の往診もあり、訪問歯科は希望者が受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師は居ないが、訪問看護が入った際には情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後もお見舞いや電話連絡を行い、入院中の様子も把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への向き合い方などの話し合いはできていない。	入居時に終末期についてできることやできないことを説明し状態に合わせて支援していくことを伝えていきます。重度化した場合は医師から家族に説明し職員も含め今後の方針について話し合う機会を持っていますが、入院に至るケースが多く看取り支援の経験はありません。看取り支援の研修は管理者が受講し職員に伝達しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。		

グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行っているが、今後も職員全体で向上していく必要がある。	年2回の消防訓練を予定しており、開設後1回消防署の指導の下昼間想定で通報、初期消火、避難誘導の訓練を行っており、次回は夜間想定で行う予定です。運営推進会議では訓練の案内をしていますが地域への直接の案内はできていません。飲料水や食料品等の備蓄品や簡易トイレ等備品を確保しています。	地域の防災訓練に参加したり、ホームの災害訓練時は地域の方へ案内すると共に参加を依頼し地域との協力体制を築いていかれることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いがけずご利用者の気分を損ねてしまうことはあるが、人格を尊重した対応を心がけている。L	管理者はプライバシー保護や接遇マナー等についての研修を受け全職員に伝達し理解を深めています。名前は苗字で呼び目上の人であることや尊厳を意識しながら固くなり過ぎないように接しています。不適切な対応が見られた場合は都度注意をしており、羞恥心を伴う入浴時等は希望があれば同性介助を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから押し付ける事が無いよう、意思を確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やや職員のペースで支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	不十分。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力に合わせてできる部分は依頼している。	食事は業者から献立と食材が届き、ホームで作っています。調味料等足りないものがある時は利用者と一緒に買い物に出かけることもあり、もやしの根取りや食器洗い等できることに携わってもらっています。業者の食事を止めてお節料理を作ったり外食に出かけ、またたこ焼きやホットケーキなどの手作りおやつを楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	注意喚起を行うなどし、水分量の確保に努めている。		

グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	記録を残しながら毎食後の口腔ケアを心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援は十分にできていない。	夜間はおむつやポータブルトイレを使用している利用者もいますが、日中は全利用者がトイレでの排泄を基本としており、排泄記録表を参考に仕草なども見逃さず声かけやトイレへの誘導を行っています。月1回のカンファレンスで排泄用品や支援方法について話し合い、紙パンツから布の下着に移行した利用者もおり、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫まではできていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	やや職員目線でタイミングを決めている。	入浴は週2回を目途に11時から午後にかけてを基本に支援しており、時間や曜日については希望に沿うよう、都度検討しています。柚子や菖蒲等の季節湯を楽しんだり、好みのシャンプーやリンスを使用する利用者もおり、職員と会話をしながらゆっくりと入ってもらっています。入浴を拒否される場合は日時を変更したり職員を代え無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については理解しているが、症状の変化は経過を伝達していく事が十分にできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや行事ごとに力を入れ、生活の中でもお手伝いを依頼し役割を持って頂いている。		



グループホームたのしい家西ノ京 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制により常に希望通りの外出ができていないわけではないが、意識的に外出の機会は設けている。	個々に職員が付き添い買い物に出かけたり、週3～4回は利用者が偏ることなく散歩に出かけられるよう支援しています。初詣や桜の花見、植物園等フロア毎の外出や外食、ドライブで嵐山方面に出かけることもあり、外出の機会が多く持てるように取り組んでいます。玄関先にベンチを置き外気浴をすることもあります。今年度は動物園や紅葉狩りなどにも出かける予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方については一緒に手紙の投函に出るなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感など配慮している。	共用空間は窓からの採光で明るく、季節の生花や外出時の写真、利用者と一緒に作ったあじさいやホタルなどのちぎり絵を飾り、季節を感じることができます。換気や掃除も丁寧にいい清潔感があり、壁際にソファを置きゆったりと過ごせるようにしており、空気清浄器を置き湿度や温度にも配慮し快適に過ごせる空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席配置の工夫や、ご利用者の性格に合わせて適宜居室で過ごす時間を設けるなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込まれるものに関して、使い慣れたものが好ましいと言ったことはお伝えしている。	入居時に筆筒やテレビ、机、椅子、冷蔵庫、時計等馴染みのものを持ってきてもらい家族が配置をしていますが、入居後相談をしながら配置換えをすることもあります。俳句の本や編み物道具等を持参し句を詠んだり編み物をする方がいるなど、その人らしく思い思いに過ごせる居室を作っています。希望により布団を敷いて休むことも可能で状況に応じて対応しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在まだ不十分		